

# 平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	認知症高齢者家族介護支援事業			会計	款	項目	大	小
政策	O4	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	介護支援課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	菊池 義博			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	認知症高齢者を介護する家族	意図	認知症の方の介護者の精神的な負担の軽減。
事業内容	認知症の方を介護する家族の集い（コスモスの会）を開催して情報交換と交流の場を設ける。			
事業開始から現在までの状況変化	介護家族健康教育として健康増進課で行っていたが、平成18年度から地域支援事業として介護支援課で実施している。事業費は地域支援事業交付金として交付される。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	コスモスの会参加者数	43	38	52	人	↑↑↑
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

  

指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）		
事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	1,060,332	828,453	776,257
事業費(b)(円)	369,332	75,453	89,757
うち一般財源			
職員給与費(c)(円)	691,000	753,000	686,500
人役・職員(人)	0.10	0.10	0.10
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

・年6回実施し、認知症の人と家族の会から助言者を招き、介護者の心身の負担の軽減を図った。  
 ・参加者の情報交換の場にとどめず、地域包括支援センター等の個別支援につながっている。

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	座談会以外の実施内容を検討する。周知の範囲を拡大して実施する。	③取組の課題	新規参加者への周知方法の検討と参加者の継続参加ができるような日時の設定が必要。
②今年度(H28)に実施した取組	平成28年度も座談会を中心に実施。休日開催を実施した際には、平日就業している若い年齢層の新規参加があり活発な会となった。	④今後の改善計画	休日開催を2回に増やし、新規参加者の拡大を図る。また、会の周知方法や範囲の拡大も継続して検討していく。今後は、若年性認知症を対象とした座談会の開催も検討していく。